

2019.04.01

## 水土文化研究部会の活動記録

### 研究会

第1回（平成16年3月18日）

「水土文化の地平を展望する」

- ・ 全国土地改良事業団体連合会：川尻裕一郎
- ・ 筑波大学：佐藤常雄
- ・ 国学院大学：小川直之

第2回（平成17年3月17日）

「水利遺構の再発見と利活用」

- ・ 東海地方における歴史的水利遺構の成立と存続条件（近畿農政局：原山昭彦）
- ・ 流れのシミュレーションによる水利遺構の評価・鼻ぐり井手を事例として（農業工学研究所：浪平篤）
- ・ 水車はなぜ消えたのか？－佐賀県K町N地区の「美しいむらづくり」から－

第3回（平成18年2月24日）

「先人たちの（水土の知）－もの・ひと・こころ－」

- ・ 水土の知とは何か－技術史の立場から－（農業工学研究所：松本精一）
- ・ 水土のひと・こころ（国学院大学：小川直之）
- ・ 水土の知はおもしろい（(株) オルタナティブコミュニケーションズ：金子照美）

第4回（平成19年2月8日）

「水土・持続のテクノロジー」

- ・ 水土持続の論理と倫理（東京工業大学：桑子敏雄）
- ・ ノマドという水土－モンゴル高原から－（国立民俗学博物館：小長谷有紀）
- ・ 地球環境への水土の知の展望（総合地球環境学研究所：渡辺紹裕）

第5回（平成20年2月28日）

「水土・持続のテクノロジー」

- ・ バリ島の稲作文化と水利システム（早稲田大学：海老澤衷）
- ・ 骨寺遺跡保存と基盤整備との調整（岩手大学：広田純一）
- ・ 一の井堰の変遷と現況の維持管理（（財）建設物価調査会：松本精一）

第6回（平成21年2月27日）

- ・ 建設会社の公益事業として、古技術・未来技術を探る（（株）大林組：勝山聡美）
- ・ 歴史的農業水利施設を技術的な視点から考える（農村工学研究所：中達雄）
- ・ 通潤用水にみる水土文化としての水路システム（農村工学研究所：島武男）

第7回（平成22年2月26日）

- ・ 水土文化が凝集された歴史的デザインコード（宇都宮大名誉教授：藤本信義）
- ・ 産業遺産としての炭坑（専修大学北海道短期大学：小林明裕）
- ・ 農村風景の中の水利用（農村工学研究所：重岡徹）

第8回（平成23年3月1日）

「水利遺産の価値と今後への活かし方」

- ・ 近世以前の農業・土木遺産の全国調査にみる水利遺産の現状と価値判断（岡山大学教授：馬場俊介）
- ・ 古代水路「裂田の溝（うなで）」と近世「石井樋」の水利施設としての類似性（九州大学教授：島谷幸宏）

第9回（平成24年3月1日）

「取水堰の歴史的価値と評価」

- ・ 川の形と流れを見すえた堰のつくり方（岩手大学教授：三輪 弌）
- ・ 河川横断構造物のあり方を考える-川と人とのふれあいを再考する-（新潟大学名誉教授：大熊 孝）

第10回（平成25年2月25日）

「農村における水車の果たした役割と今後の展開」

- ・ 武蔵野台地南部の水車の用途の変遷（産業考古学会・水車と臼分科会代表：小坂克信）
- ・ 中国地方の小水力発電所60年の歴史に学ぶ（イーメル工業（株）顧問：沖武宏）

第11回（平成26年2月27日）

「農業水利システムの果たした役割と今後の展開」

- ・ 北海道における農業水利システムの変遷について（（独）土木研究所寒地土木研究所：中村 和正）
- ・ 農業水利システムの歴史とストックマネジメントとの関わり（（独）農研機構農村工学研究所：樽屋啓之）

第12回（平成27年2月27日）

「伝える～未来に向けて～」

- ・ 農業水利設計技術の伝え方〈水〉の分野から（（独）農研機構農村工学研究所：中 達雄）
- ・ 農村地域資源の伝え方〈里〉の分野から（（独）農研機構農村工学研究所：石田憲治）

第13回（平成28年2月26日）

「伝えるⅡ」

- ・ 〈水土の知〉の伝承－黒楸の知、河童の知－（水土文化研究部会：広瀬 伸）
- ・ 高校生による地域の伝承文化研究－國學院大學の取り組み－（國學院大學：小川 直之）

第14回（平成29年3月2日）

「見つめる～過去から、今、これからを～」

- ・ 農村の暮らし、文化を育む景観とその伝え方（熊本大学政策創造研究教育センター：田中尚人）
- ・ 棚田景観を保全する通潤用水の変遷と役割（農研機構九州沖縄農業研究センター：島 武男）

第15回（平成30年3月9日）

「水土の“こころ”」

- ・ 「“こころ”をつなぐ」（豊田土地改良区資料室長：達 志保）
- ・ 「“こころ”をはかる」（農研機構西日本農業研究センター：廣瀬 裕一）

第16回（平成31年2月27日）

じかた

「地方well-being!!」

- ・ 「地方 well-being」（京都大学大学院地球環境学堂教授：渡邊紹裕）
- ・ 土木遺産としてのため池，オーラル・ヒストリー，アーカイブ研究（筑波大学生命環境系研究員，法政大学兼任講師：堀川洋子）
- ・ 多様な主体が住み続けられる農村社会の構築（農林水産省農村振興局計画調整室長：石井克欣）
- ・ 農村資源の再評価の視点から（農研機構農村工学研究部門：後藤眞宏）

## 学会企画セッション

平成17年度農業土木学会大会（平成17年8月25日）

「水土文化資源の多面的利活用 ―水土の記憶を活かす―

- ・ 水田漁撈の未来（国立歴史民俗博物館 安室 知）
- ・ 暮らしのキオクを生かす―回想法・高齢者ケアの古くて新しいツール（師勝町歴史民俗資料館 市橋芳則）
- ・ 「記憶」のカタチ「記憶」のチカラ 農村振興の実践のために（農村工学研究所 山下祐作）

平成18年度農業土木学会大会（平成18年度8月9日）

「様々なる水土の知 中国辺境地区農村に見る伝統と近代」

- ・ 海南島の2村落における生業の転換：政策、換金作物、観光開発の影響（東京大学大学院 梅崎昌裕）
- ・ 生業システムからみた水田利用の多様性―雲南国境地帯の棚田を事例として―（国立歴史民俗博物館 西谷 大）

平成19年度農業農村工学会大会（平成19年8月30日）

「文化的景観の諸相―歴史、心意、そして伝承―

- ・ 歴史的文化遺産の景観復原 ―島根県を事例として―（島根大学 松杉力修）
- ・ 伝承という実践 ―記憶の喚起による心意の再生と景観保全―（農村工学研究所 山下祐作）

平成20年度農業農村工学会大会（平成20年8月28日）

「水土文化研究、その回顧と展望」

- ・ 水土文化部会、その五年間の軌跡と内省（農村工学研究所 山下祐作）
- ・ 水土文化研究によってもたらされる農業農村工学技術者の変革（農村工学研究所 後藤眞宏）

平成21年度農業農村工学会大会(平成21年8月4日)

「水土文化研究 一村明細帳から見える農業土木」

- ・ 「村明細帳」に残された農業水利 (建設物価調査会 松本精一)
- ・ 江戸時代の農業水利の実態 (建設物価調査会 松本精一)
- ・ 村明細帳が伝える現代の農業水利 (農村工学研究所 後藤眞宏)

平成22年度農業農村工学会大会(平成22年9月1日)

「水車を用いたエネルギー利活用 ー伝統的かんがい利用からマイクロ水力利用までー」

- ・ かんがい用揚水水車の性能評価 (農村工学研究所 廣瀬裕一)
- ・ 山村農家における小水力発電を利用した電力自給 (富山国際大学 上坂博亨)
- ・ 一昔ながらの田園風景ー地域の力で水車が復活 (新野水車の会 生田良昭)
- ・ 日本古来の水車による発電と地域活性化 (京都府南丹広域振興局 辻大地)

平成27年度農業農村工学会大会(平成27年9月1日)

「岡山藩の土地改良における水土の知」

- ・ 江戸時代の新田開発における岡山藩の特徴 (農村工学研究所 廣瀬裕一、後藤眞宏 九州沖縄農研センター 島武男)
- ・ 近世岡山の農業遺構の特徴 (岡山大学名誉教授 馬場俊介)
- ・ 田原井堰および田原用水の歴史的意義 (和気町歴史民俗資料館 森元純一)
- ・ 沖新田干拓地の水管理(番水)から学び継承すべきこと (農村工学研究所 樽屋啓之)

平成28年度農業農村工学会大会(平成28年8月31日)

「仙台藩の地域づくりにおける水土の知」

- ・ 仙台藩の「水土の知」ー大崎耕土を中心にー (NPO 法人あぐりねっと21 加藤徹)
- ・ 元禄潜穴と品井沼干拓にみる「水土の知」の源流 (宇都宮大学 田村孝浩)
- ・ 大堰と内川の歴史的価値について (大崎土地改良区 青木幹)

平成29年度農業農村工学会大会(平成29年8月30日)

「相模地域の地域づくりにおける水土の知—復興と地域創生の観点から—」

- ・ 富士山噴火による酒匂川流域の災害と復興—田中休愚の事績を中心に—  
(神奈川県立秦野曾屋高等学校 関口康弘)
- ・ 報徳仕法の地域創生—相州片岡村・克讓社仕法 (平塚市博物館 早田旅人)

平成30年度農業農村工学会大会(平成30年9月5日)

「京都の地域づくりにおける水土の知—千年の持続と独自の近代を支えた水—」

- ・ 「千年の都」京都の<水土> (京都大学大学院地球環境学堂 渡邊紹裕)
- ・ 琵琶湖疎水の開削と京都の近代化 (京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科 小野芳朗)

## 学会誌

学会誌講座

水土文化への誘い 12回